



CUAC ACC-18 ネットワーク報告

理事会： The Revd Canon Prof ピーター・ニール（ビショップ・グローテスト大学、英国リンカーン）、議長；Dr D. M. ダヴァマニ・クリストファー（アメリカン・カレッジ、インド・マドゥライ）；Dr ジョエル L. カニンガム（ユニバーシティ・オブ・ザ・サウス、米国テネシー州シウォーニー）、会計担当；The Revd Dr ロバート・デレンバック（トリニティ・カレッジ、オーストラリア・メルボルン）；Dr リリアン I. ジャスパー（ウイメンズ・クリスチャン・カレッジ、インド・チェンナイ）、セクレタリー；The Revd Dr Canon ジェームズ・コンボ（セントポールズ大学、ケニア・リムル）；Dr ギセラ D. A. ルナ（トリニティ・ユニバーシティ・オブ・アジア、フィリピン・ケソンシティ）；Dr クリスティン・ジョンソン・マクファイル（セント・オーガスティン大学、米国ノースカロライナ州ローリー）；The Rt Revd Dr レンタ・ニシハラ（立教大学、日本・東京）；Prof ユーニス・シモンズ（チェスター大学、英国チェスター）；The Rt Revd トッド・タウンゼンド（カナダ・オンタリオ州ロンドン・ヒューロン主教）；The Rt Revd マーチン・ワートン（英国ニューカッスル主教（引退））、副議長；The Revd Canon ジェームズ G. カラウェー DD、ゼネラルセクレタリー

目的： アングリカン・コミュニオン・カレッジ・ユニバーシティ（CUAC）は、アングリカンのカレッジとユニバーシティの世界的なネットワークであり、互いに関わり合い、社会と関わり、そして教会と関わることを通して互いに繁栄することを目的としており、その学生や教職員が神の世界で活発かつ機敏な市民になることを目指しています。

アングリカンの何かをネットワークに作り上げるには、エネルギー、忍耐そして祈りが必要であります。世界に 165 のアングリカン系高等教育機関があると認識されているが、現在のところ 66 機関のみが会費を支払っており、これを参加の指標としています。やるべきことがまだまだたくさんあります。CUAC の運営上の財産は、上に挙げた 5 大陸からの 12 人の理事で、年に 8 回オンラインで会合を行っています。

13:00 GMT の時間枠を見つけるのにも、米国シウォーニーの 07:00 からオーストラリア・メルボルンの 23:00 まで広がっており、困難でありました！

市場の力はあらゆるものに影響を与え、高等教育では商品化が急速に進み、より高い賃金の仕事の獲得につながるスキルだけを教えることに対する経済的プレッシャーがあります。対照的にアングリカンの目標は、全人格的な人を作ることです。それは、批判的思考ができる人であり、自分自身を表現するだけでなく、コンセンサスと宣教の指標の社会的取り組みにつながる対話に関わることであります。最後に、各機関自身がキリスト教を受容するよう私たちが促すのと同様、教区、主教、司祭、および信徒が、それぞれの幸福のために活動し、与え、祈る責任を認めることが重要であります。

宣教の5つの指標との関係： アングリカン高等教育における学生の旅は、「成長」の機会という課題を突きつけられることであります。自立生活の新たな自律性を発見することで、学生は、キャリアと人生に向けて準備する中、若い大人に新しい視点と可能性を提供するさまざまな学問やトピックに触れることができます。

この旅と並行して、人生とは自分自身の幸福を確保するだけでなく、隣人を助けることが自分自身の成長にも不可欠であることを認識することです。アングリカン高等教育の特別なカリスマは、「愛ある奉仕を通して人間のニーズに応える」という第3の宣教の指標に明らかにされています。私たちのメンバーは、「コミュニティ・エンゲージメント（コミュニティとの関わり）を追求するためにこれを定め、困難なコミュニティで奉仕と活動を行うことを学生に課しています。メンバーの一人は次のように述べている：「コミュニティ・エンゲージメントは、知識、リソースおよび関係を育み、私たちのコミュニティの経済的・社会的・環境的な幸福を促進することに資する」。これは世界的な現象であり、多くの大学は卒業のために必須の奉仕時間数を求めています。一方、自発的なアプローチを取るところもあるかもしれません。実際、CUACは毎年、フィリピンで2週間の特徴ある奉仕-学習プログラムを行っており、現在は5カ国からの学生を受け入れています。

社会における社会的不平等の人間の側面を発見することは、第4の宣教の指標である「社会の不公正な構造を変え、あらゆる暴力に挑戦する」という必要に若者の目を開かせることが多くあります。コミュニティ・エンゲージメントとは異なり、運動や抗議活動への参加は、組織ではなく、学生自身によって組織されています。

高等教育における最後の重要点は、学生たちが、私たちの「アイデンティティとキャラクターの宣言」の観点で、自分たちの周りの世界の状況を認識し、第5の宣教の指標である「被造物の完全性を守り、地球の生命とそれが支える多様なコミュニティを維持し新たにすること」に努めることであります。CUAC気候危機ワーキングパーティは、COP会議の後、私たちの世界中のメンバーから活動報告を集めています。

ACC-17以降の活動： パンデミックは、アングリカン高等教育機関の、コミュニティベース教育を通じた変革のモデルと、その財政に壊滅的な打撃を与えました。2020年7月に登録済みのロンドン・トライエニアルをキャンセルし、CUACはオンラインに切り替えて会員をフォローし、四半期ごとにオンラインセミナーを開催しました。パンデミックの管理に関するトピックから私たちは始めたが、テーマ

は広がり、昨年 11 月の「チームワークの約束：チームを築く」に関するセミナーVIII を実施し、それらは貴重であることが証明されました。オンラインセミナーは、従来の対面式トライエニアル・カンファレンスよりも多くの参加数を得たが、オンライン学習のように、1 週間にわたるトライエニアルでのコミュニティ構築の可能性はありませんでした。

2026 年 ACC19 までの今後 3 年間の目標と計画： 第一に、今年の 7 月には、6 年ぶりに、オーストラリアのメルボルンで開催される第 11 回インターナショナル・カンファレンス：**コミュニティの再発見：真実を見極め、学びを深め、コミュニティを強化する**で私たちのトライエニアル・カンファレンスを再開します。テーマは、通常に戻ることの複雑さを扱っているが、能力は大幅に低下しています。高等教育やコミュニティの問題に加えて、オーストラリアでは、先住民の集団的土地公正のための闘争を理解し、そこに見られる創造物の素晴らしさを知ることが求められています。このトライエニアルの経験は、今後数年間のネットワーキングのためのコミュニティを構築することになることから、私たちは 90 人の代表者のトライエニアル・カンファレンスへの参加を目指しています。新型コロナウイルスの懸念が継続しており、オセアニアへの旅行コストが高くなっているにもかかわらず、私たちは世界的なコミュニティを構築するという欲求の高まりに期待しています。この会議は、1993 年のカンタベリー会議以来 30 周年であり、1962 年の設立以来、エписコパル・カレッジ連合自体の 30 年の遺産を引き継ぐものであり、したがって今回が CUAC の 60 周年記念となります。

私のセクレタリー・ゼネラル時代に学んだ主な教訓は、CUAC ネットワークがアングリカン高等教育のニーズと機会に積極的に対応するためには、私たちの会費やその他の収入よりもはるかに多くのリソースが必要であり、年間運営収益と寄付金の両方が必要であるということでもあります。そこで、私たちはこのような支援を求めるためにサステナビリティ・イニシアティブを立ち上げました。私は一貫して、ネットワーク自体よりも、困っているカレッジやユニバーシティのために資金を調達する方がはるかに簡単であると考えてきました。私たちは、出版物やアウトリーチの方向性を、主にメンバーと話すことから、私たちのことをより広い世界に伝えることに変えてきました。教会のほとんどは、アングリカンのカレッジがあることをまだ特に気が付いていないが、ネットワーク自体の重要性と価値を示すには、微妙なニュアンスと慎重な配慮が必要であります。しかし、私たちのことを伝えることは、特にアングリカン高等教育の活動にとって、そして一般的にコミュニオン of 的統一の役割にとって、より良い未来を築くために非常に重要であります。

過去 3 年間で世に知らせたいハイライト一つ： 幾分複雑な経緯があるものの、人種的正義を構築するためにエписコパル・チャーチが積極的に貢献した素晴らしい遺産は、アメリカ南北戦争後に元奴隷の子供たちを教育するために設立された黒人大学を支援してきたことでもあります。聖職者らは 2 つの残りのエписコパル・ヒストリカー・ブラック・カレッジ/ユニバーシティ(HBCUs)、ノースカロライナ州ローリーにあるセントオーガスティン大学、そしてサウスカロライナ州デンマークにあるブアヒーズ大学に

対し継続しています。7つのエписコパル・カレッジのうちこれら2つを支援することはCUACの主な使命であるます。低所得家庭の学生の教育は容易なことではなく、十分なリソースがないため、それは非常に困難なことでもあります。7年ほど前に、特にHBCUsのための全教会的委員会を設立することに私たちが関わってから状況は変わりました。この委員会の一部として、それらを代表して毎年の特別寄付があり、最初の黒人のエписコパル司祭であるアブサロム・ジョーンズにちなんで名付けられています。マイケル・カーリー総裁主教の力強い支持を受け、昨年この基金は20万ドル以上を調達し、2つの大学に対する教会の支援を実質的に2倍にし、まだ増え続けています。これは、私たちだけで達成することができる範囲を超えた挑戦に外部の支援を集めている例であります。まだまだやるべきことはたくさんあるが、このアブサロム・ジョーンズ基金は、この2つの大学の存在とニーズを、ゲームチェンジを引き起こすほど広く知らしめることになりました。

ACCで話し合うべき問い一つ： 気候危機は、創造物の完全性を保護するために、私たちの時代の最も重要な課題であります。そのため、それはキリスト教徒がしていること、すべきことすべてに触れるものである。CUACが気候危機に関するオンラインセミナーでCOP26に取り組んだとき、私たちのキャンパスで気候変動に取り組む活動が複数立ち上がったが、それらは孤立し、まとまりのないことが多いことを私は発見しました。おそらくコミュニオンにおいても同じことが言えるかもしれません。創造物の完全性を維持するための私たちのすべての努力が、どうすればより深まり、ひとつになれるかについてACC-18で検討することは有益であるでしょう。

ジェイミー・カラウエー
セクレタリー・ゼネラル